

慢性心不全

品実は効果的

末しよう血管が拡張

従来、慢性心不全に良くないとされてきた入浴には、逆に高い治療効果があることを、鹿児島大リハビリテーション科の鄭忠和講師が突き止め、六日まで広島市で開かれた日本心臓病学会で発表した。

広島の
学会 鹿児島大講師発表



鄭 忠和 講 師

心筋症など重い慢性心不全の場合、安静にして横になっていることが基本とされ、入浴も「心臓の負担が大きい」

として禁じられている。

これに対し鄭講師は、温浴には末しようの血管を拡張させる作用がある点に着目。慢性心不全の治療に血管拡張薬が使われることから、風呂(ふろ)に入ることで心臓の負担は軽くなると考えた。

慢性心不全に陥った拡張型心筋症と虚血性心筋症の入院患者十人(二十日～二十一日)

動脈楔(せつ)入圧などのデータがそろって低下したほか、僧帽弁逆流も減少していることが判明。また一カ月後には、心肥大が軽くなり、息苦しさなどの自覚症状も明らかに改善されていることが分

広買堂 熊膽園 ユウタンエン

かった。

鄭講師は「一カ月の治療で歩けるようになった退院し、外来で治療している重症患者もいる。体を洗うなどの負担をかけなければ、入浴に伴う危険性はない」と話している。